



音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点 複合施設整備について

仙台市

# 1 複合施設を整備する理由 — まちづくりへの投資

## ■ 東日本大震災による被災と復興

- ・当たり前の「豊かさ」を問い直す文明災
- ・助け合い、立ち上がる人の力
- ・復興における分断や格差
- ・自然災害は再び発生するという認識

## ■ 文化芸術の力の再認識

- ・被災者の心に寄り添う音楽の力
- ・アーティストによる多彩なアウトリーチ活動
- ・言葉をつむぎ、伝えていく力
- ・共感や感動、笑いで新たな活力を生む



日常でも、災害時でも  
人の力・文化芸術でウェルビーイングを実現するまちへ

被災地最大都市・仙台としての責務であり、東北最大都市・仙台だからできること

## 2 仙台市の文化芸術の捉え方

### ■文化芸術基本法

- ・文化芸術を創造し、享受し、文化的環境の中で生きる喜びを見出すことは、人々の変わらない願い
- ・文化芸術は、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するもの
- ・世界の平和に寄与するもの
- ・国際化が進展する中において、自己認識の基点となり、文化的な伝統を尊重する心を育てるもの

### ■仙台市文化芸術推進基本計画(令和6年3月)

- ・仙台市文化芸術推進基本計画では、計画の対象範囲を、芸術、メディア芸術、伝統芸能、芸能、生活文化・国民娯楽・出版物等、文化財、地域文化、災害文化の8分野として位置づけています

芸術

メディア芸術

伝統芸能

芸能

生活文化・国民娯楽・出版物等

文化財

地域文化

災害文化

東日本大震災の経験と教訓を未来のまちづくりに生かしていくため、**災害文化を文化芸術と位置づけていることが仙台市の特徴**

### 3 これまでの経過

#### 音楽ホールの検討経過

1992年 「(仮称)仙台市音楽堂基本構想」策定  
※長町地区への整備を計画→実現には至らず

2011年3月 東日本大震災 → 復興の過程で 文化芸術が力を発揮

2014年 「音楽ホール建設基金創設発起人会」発足  
2015年 「楽都・仙台に復興記念『2,000席規模の音楽ホール』を！市民会議」設立

2017年 「仙台市音楽ホール検討懇話会」設置

#### 中心部震災メモリアル拠点の検討経過

2014年 仙台市震災復興メモリアル等検討委員会  
報告書 提出  
⇒中心部・沿岸部の2拠点で展開することが有効

2016年 せんだい3.11メモリアル交流館 開館  
2017年 震災遺構仙台市立荒浜小学校 開館  
2020年 中心部震災メモリアル拠点検討委員会  
報告書 提出

2022年1月 複合整備の方針を表明

音楽ホール: **文化芸術の総合拠点** × **災害文化の創造拠点**: 中心部震災メモリアル拠点

#### 複合施設としての検討経過

2023年 複合施設基本構想 策定  
2024年 複合施設基本計画 策定  
公募型設計プロポーザルの実施  
⇒ 設計者に『藤本壮介建築設計事務所』を選定し、基本設計に着手  
2025年 基本設計(中間案) 公表  
2026年 基本設計 完了

## 4 新たな文化創造による都市のリ・デザイン

### 【文化芸術と災害文化の融合が拓く未来】

- ・自然災害が多発する国 各地で災害を契機とした文化芸術活動が展開されてきた  
(阪神・淡路大震災後の兵庫県立芸術文化センターの取組、熊本現代美術館の取組など)

仙台市の複合施設は、災害から立ち上がるための文化芸術活動を、恒久的なものとし  
未来に生かしていく

- ・東日本大震災という未曾有の体験を風化させず 多様なアート手法を用いて  
日常をより良く生きるために活かしていく



音楽の神髄は「再生と伝承」です

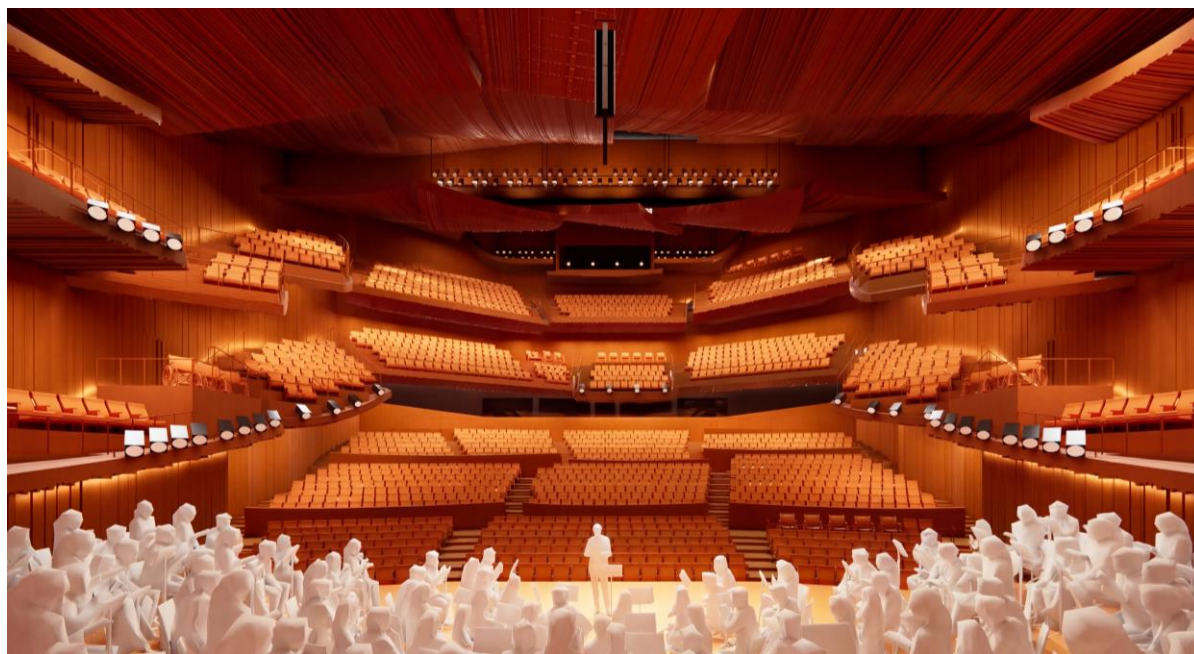
各々の演奏会で数多くのドラマを生み出してきた音楽は、人類が創造した最高のコミュニケーションツールだと感じています

(NHK交響楽団のコンサートマスターであった篠崎史紀氏の退団メッセージから引用)

## 4 新たな文化創造による都市のリ・デザイン

### 【仙台の新しい文化芸術シーンを拓く大ホール】

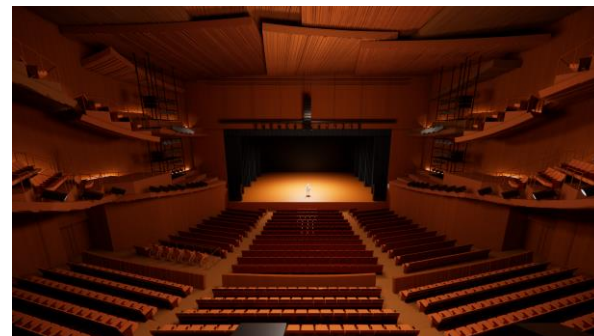
生の音に対する優れた音響性能を持ち、2つのホール形式に転換可能な2000席規模のホールがこれまで仙台でできなかった公演を実現



▲大ホール(コンサートホール形式)舞台より



▲大ホール(コンサートホール形式)客席より



▲大ホール(プロセニウム劇場形式)客席より

## 4 新たな文化創造による都市のリ・デザイン

### 【鑑賞から表現へ、参加から交流へ、創造活動が溢れる場】

生の音の響きを重視し、演劇、舞踏、演芸など、さまざまな舞台芸術にも利用できる約350席の小ホール、音楽と舞台芸術の双方に対応し、大ホール公演のリハーサルの他、200名程度の発表会にも利用できるリハーサル室、ワークショップスタジオや大・中・小の練習室が、鑑賞だけではない多様な文化芸術活動を後押し



▲小ホール



▲リハーサル室

# 4 新たな文化創造拠点による都市のリ・デザイン

【文化芸術の力を社会の様々な領域に生かし暮らしとまちを豊かなものとしていく】

【ワークショップスタジオ／施設外】

## ワークショップ・アウトリーチ

- ・こどもの発達段階に応じたプログラム
- ・高齢者、障害者などあらゆる人に向けたプログラム

### ▶ 活動が広がる基盤づくり

- ・研修・講座
- ・ネットワーク構築
- ・自主的活動の支援
- ・ノウハウの横展開

### ▶ 地元人材との連携・協働 各分野の専門家との協働 (教育、福祉、テクノロジー等)

### ▶ プログラムの開発・蓄積 →他都市展開



複合施設プレ事業「こんにちはコンサート」  
@仙台市立病院



【参考事例】  
東京文化会館ワークショップリーダーの育成

【小ホール】

## インクルーシブ公演

- ・障害のある人とない人で、ともに作る舞台芸術作品
- ・「声を出してもいい」「寝転がってもいい」リラックスコンサート
- ・最新技術や新たな視点を取り入れた、鑑賞のバリアを除去する企画

文化芸術による  
共生社会の共創

仙台フィル



リラックスコンサート  
@日立システムズホール仙台

## 文化芸術を介した地域づくり

- ・コミュニティ創生
- ・地域課題解決
- ・地域のレジリエンス向上

アーティストが仙台を拠点に活躍し、あらゆる人が文化体験を享受できるサプライチェーンを形成

# 4 新たな文化創造拠点による都市のリ・デザイン

## 【未来をより良く生きる 災害文化の広がり】

トップクラスの音楽ホールが  
唯一無二のオリジナリティを持つ

- ・震災の記憶や地域に根差した作品の創造
- ・仙台フィルは「災害から立ち上がるまちの象徴」へ
- ・文化芸術の創造力をアピール

災害をはじめ、  
様々な困難に寄り添い、  
解決していく文化芸術の力を  
発揮できる

- ・感動や共感する力を生かす
- ・日常で広がった交流が、非常時に役立つ
- ・世代や言語を超えた繋がりを形成

文化芸術の力で、個人の記憶を  
長く、多くの人に伝える  
ノウハウを作り出せる

- ・朗読や演劇による伝承
- ・作品制作や上演ノウハウの支援

多様な表現  
多様な活動



©佐々木



しなやかで強靱に  
生きる文化が定着

災害や困難に負けず、新たな創造を  
生む場となる

- ・多様なアーティスト、活動が集まる場へ
- ・文化による他都市の復興支援

多様な出会い  
多様な気づき

## 5 仙台フィルハーモニー管弦楽団の飛躍

我がまちのオーケストラとして

### 地域に寄り添う

震災を経験したオーケストラの使命として

東日本大震災の経験を踏まえ、  
各地で起こる災害の被災地で復興コンサートを開催



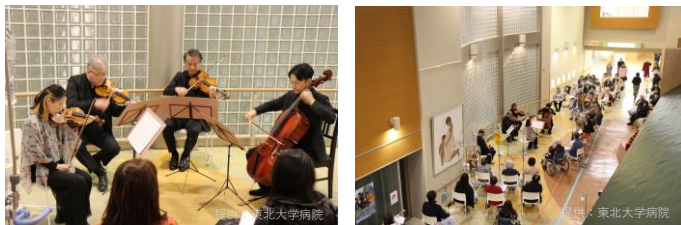
こどもたちに音楽の楽しさを伝える

仙台ジュニアオーケストラの指導や  
小中学生を招待するオーケストラ鑑賞会の開催など



会場に来れない方たちにも音楽を届ける

病院や介護施設での「ほうもんコンサート」



### 世界を視野に



- ・レジデントオーケストラならではの  
**この施設でしか聴けない響き**
- ・オーケストラの生演奏による  
**音響も楽しめるオペラ・バレエ**
- ・世界で活躍するソリストとの共演による  
**極上のコンチェルト**

国内外から「一度は聴いてみたい」と  
思われる存在に

## 6 市民が主役の複合施設

### 施設が主体となったコンテンツ創造

- ・国内外の著名オーケストラ公演
- ・オペラ、バレエなどの制作・上演
- ・市民参加型の作品創造 など

### 他都市施設・文化芸術団体との共同・連携による多様なコンテンツの展開

### 興味関心層の拡大

### 戦略的な広報・マーケティング

### 海外からの集客が期待できるソリスト等の起用

### せんだい建築祭

市内・近郊の名建築物にスポットを当てた建築イベントの開催により交流人口を拡大



仙台っていいな!  
いつでも芸術に  
触れられるまち

地域の  
文化芸術力の  
向上

楽都仙台の  
さらなる発展

文化芸術に  
よるインクルー  
シブの実現

文化芸術に  
関わる多様な  
人材の育成

人を呼び込む  
(交流・関係・  
定住人口の拡大)

音楽家になりたい!  
こども達に  
豊かな芸術環境を



### 仙台国際音楽コンクールのブランド力向上

### 広域交流イベントの開催

- ・仙台クラシックフェスティバルの充実
- ・合唱、吹奏楽などの全国大会、東北大会

全国的・世界的に活躍する  
仙台・宮城ゆかりのクリエイター  
コンテンツとのコラボ

## 7 事業費の見込み

### ■整備事業費の見込み

	基本設計終了時点	備考
①建設工事費	582億円	建築費：548億円 外構工事費：11億円 土壌汚染対策費：23億円
②設計・監理費	30億円	基本設計費：3.9億円 実施設計費：16.7億円 技術協力委託費：1.7億円 施工監理費：7.9億円
③関連整備費	34億円	文化財調査、CM業務、備品費、展示製作費など
合計(①+②+③)	646億円	

### ■運営・管理費の見込み

- ・他都市の類似施設の運営状況等を参考に試算した、運営・管理費の支出額の想定は約18億円/年（維持管理費約8億円、人件費約5億円、事業費約5億円）
- ・収入の見込みとしては、施設の使用料収入約2億円、事業収入（チケット収入、補助金等）約2億円のほか協賛金・寄付金等の外部資金獲得を見込む

## 8 歳入アップの取組み

### 【設置者における外部資金獲得】

・ネーミングライツ、ふるさと納税制度の活用など

### 【指定管理者における外部資金獲得】

・補助金・助成金の獲得

・スポンサー制度、賛助会員制度、クラウドファンディングなど

全国トップクラスの文化施設を対象とする「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」の将来的な獲得を目指す

## 9 経済的効果の拡大に向けた取組み

施設の魅力を最大限に活用し、エリア全体として観光施策と連携することで、観光消費額の大きい県外来場者及び宿泊者数の拡大を図り、経済波及効果を高めていく。

### 【施設としての取組み】

魅力的なコンテンツの開発、戦略的な新規創客、建築物の個性を生かす取組みなど

### 【青葉山エリア全域および全市的な観光振興の取組み】

大規模会議誘致、ナイトコンテンツ整備、複数施設の周遊促進、観光消費促進など

### 📊 来場者数・経済波及効果の推計

来場者数見込(年間) … 約72万人

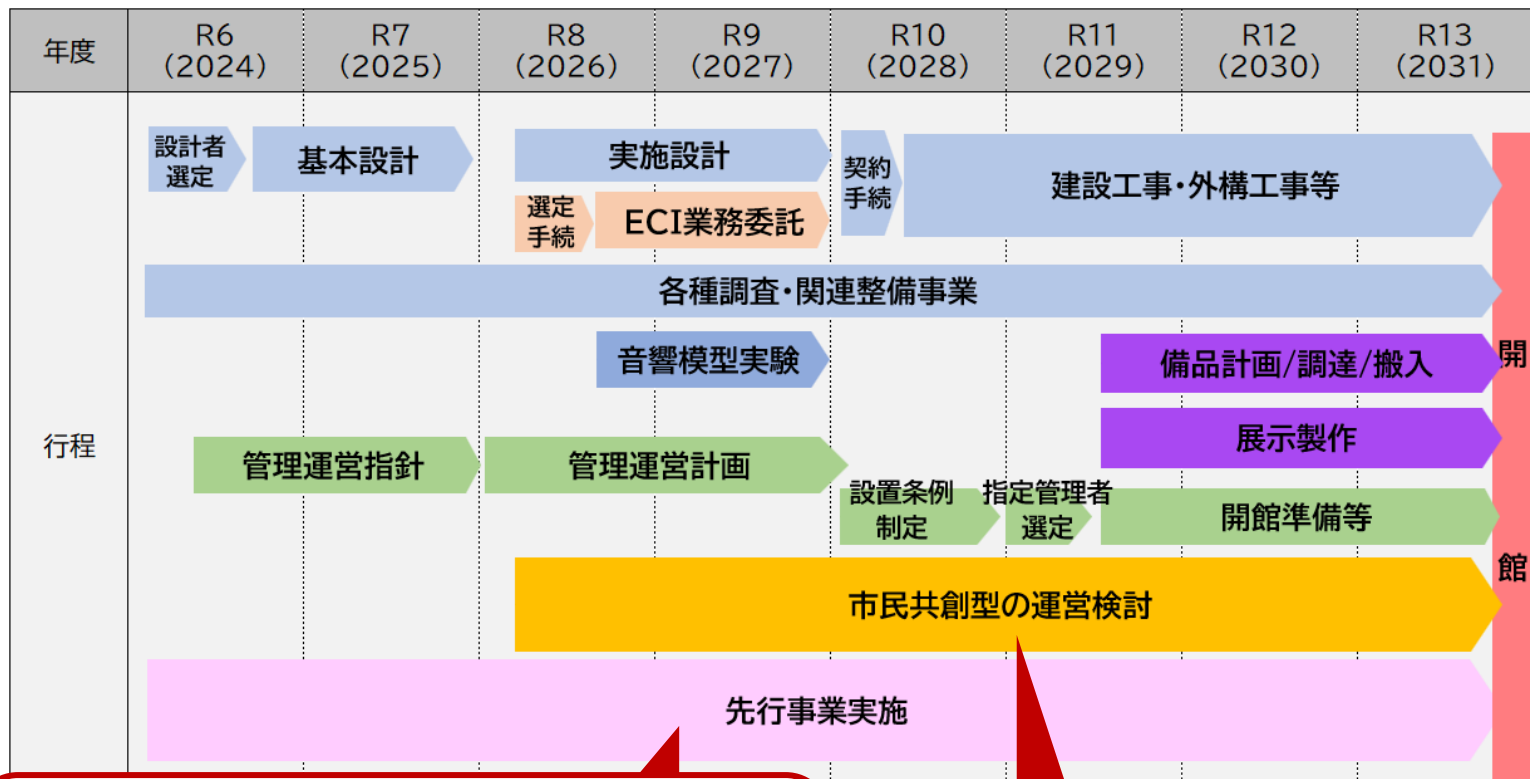
上記のうち県外来場者数見込(年間) … 約11.8万人

県内の経済波及効果(年間) … 約87億円

# 10 今後のスケジュール

## ●情報発信

施設の整備状況や実施する事業など、伝わりやすい動画コンテンツなどを作成し様々な情報発信を展開していきます。



### ●事業モデル構築と機運醸成の取組み

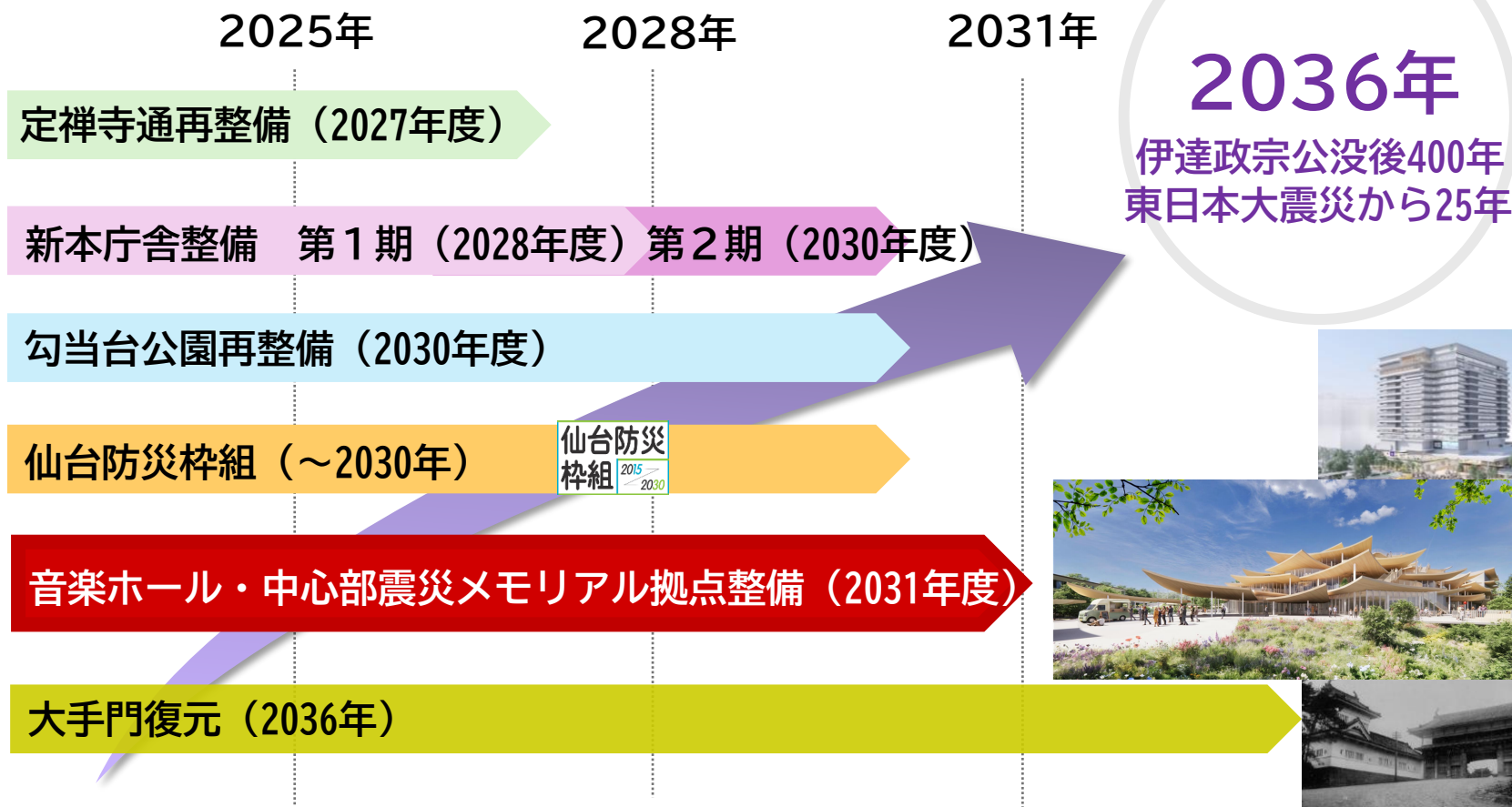
開館後の事業のモデルとなり、多くの人に施設の意義を実感できるプレ事業について取り組んでいきます

### ●市民共創型の運営検討

施設の事業や運営について、多くの市民や有識者が参画して意見・知見を持ち寄って対話する場を設け、市民共創型の運営検討を進めます

# 11 挑戦を続ける新たな杜の都ー2036プロジェクト

## 2036年を見据えた仙台市の取組み



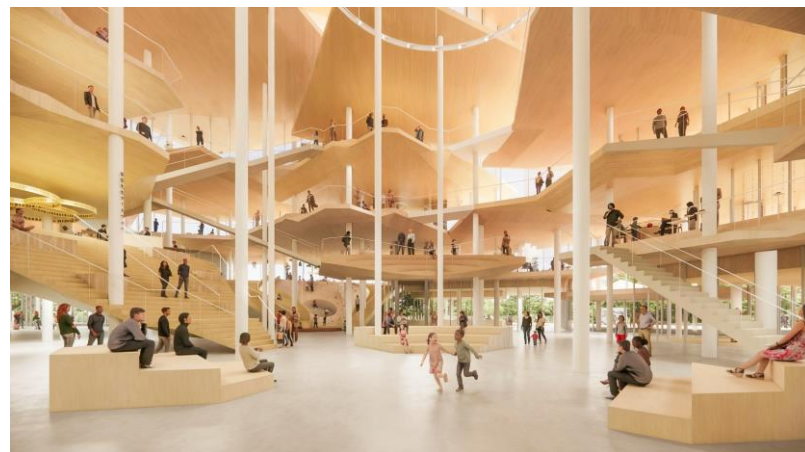
都市の魅力向上により交流人口を拡大し、活力や新たな市場を生み出すため必要な投資

### ■ 設計コンセプト 「たくさんの/ひとつの響き」

- ・多様な記憶や思い、活動が共存し響き合うこと(たくさんの響き)と、それらが時にはひとつにつながること(ひとつの響き)が連鎖していき、人と人、過去と未来が結びつく
- ・文化芸術と災害文化が多層的に交わる空間の中で、まちを豊かで強靱にする仙台ならではの文化を創造し、世界に向けて発信する

### ■ 未来に向けた文化を創造・発信する拠点へ

- ・未来の市民にとって重要な活動拠点であり、新たな文化を創造する場として多彩な文化芸術活動が生まれる場
- ・これまで積み重ねてきた文化芸術活動の歴史を受け継ぎ、その力をさらに発展させていく
- ・東日本大震災の経験を未来に生かし、世界中からいただいたご支援に応えていく



▲交流イベントロビー